

令和2年度 厨房事業報告書

1. 基本方針

「美味しく食べて笑顔で暮らせる食事」について

食事を通して食べる楽しみを感じながら日々穏やかに暮らして頂けるよう取り組んできました。

2. 実施内容

(1) 年間実施食数

食種	経口食	経管栄養	職員食	検食	家族食
年間食数	37,341	7,474	9,111	1,095	
1ヶ月平均	3,112	623	759	91	
1日平均	102	20	25	3	
年間総食数	55,021食				

(2) 年間食材費

食材費	特養
平均	1人1日 880円
食材費総額	16,048,898円

(3) 年間平均食事栄養量

栄養量	熱量	たんぱく質	脂質	塩分	炭水化物
特養	1,408kcal	64g	38g	6.7g	275g

(4) 栄養ケアマネジメント

対象者	対象者	実施期間	見直し期間
特養	入居者全員	通年	3ヶ月。但し、食事形態に変更があった場合は、その都度随時見直し対応
(令和3年3月末日)			
アセスメント結果 入居者 43名	低リスク (問題ない者) 18名	中リスク (やや瘦傾向・経管者) 24名	高リスク (褥瘡がある等) 1名

3. 具体的な内容

(1) 栄養ケアマネジメント

各家会議及びケア会議、食事・口腔ケア委員会等にて多職種で低栄養状態予防・改善のためケース検討を重ね、栄養計画に基づいた食事提供や評価、モニタリングを通して個別ケアに反映して来ました。また、厨房からも積極的にユニットへ出向き看護、介護職員とその都度話し合いながら、希望されている事やどうしたら食べてもらえるか一緒に取り組めたように思います。今後、各家からの声を直ぐ反映できるよう連携をより一層強めて行きたいと思えます。

(2) 行事食

年間実施行事食

月	行事	月	行事	月	行事
4		8	お盆、賀寿祝い	12	クリスマス会、餅つき、大晦日
5	母の日、柏餅作り	9	敬老会、秋彼岸	1	新年会、七草、小正月
6	父の日、賀寿祝い	10	開所記念日、賀寿祝い	2	節分、賀寿祝い、非常食訓練
7	七夕会、土用の丑	11	芋煮会、賀寿祝い	3	ひな祭り、春彼岸

- ・ 行事食を今までの使用していた弁当箱をプレートランチで提供することで、見た目にも映え、美味しさも増したようで皆さんに好評でした。また、容器代の節約にもなりました。
- ・ 賀寿祝いや季節の行事食等で、ご利用者の好きな料理を入れたり、旬の食材を使った料理で季節を感じて頂きながら、食べ易いように調理方法も工夫してきました。(スチコンの活用や青物のゼリー寄せ等)
- ・ 事前に賀寿祝いのメニューを相談していたところ、普段は静かなご利用者が「ぼたも

ち食べたい。約束だがんばら」と話してくれました。こんなにハッキリした口調で自分の気持ちを話されたことに驚きましたが、同時に凄く嬉しく感激し、いつも以上に食事作りに力が入りました。

- ・ コロナ禍で今までのように皆で集まる行事がなくなり残念です。この状況が暫く続きそうですが、少しでも料理で行事を盛り上げられるよう取り組んで行きたいと思います。

(3) 誕生会

- ・ 今年度は5名の方が賀寿祝いを迎えられ、通常の誕生会も含め、ケーキ等のデザインが同じにならないようにするのが難しかったものの、力を合わせてできたものは満足できる仕上がりとなり皆さんに大変喜んで頂けました。
- ・ 1年に1度のメモリアルの期待に応えられるよう、アプリ等活用し、今後もその人のための創作ケーキ等を提供して行きたいと思います。

(4) 取り組み「野菜をおいしく食べる」

食事口腔ケア委員会と連携し、具沢山みそ汁や青物野菜のゼリー寄せを提供、調味料も目の前でかけ、食べてもらうなど取り組んで来ました。ゼリー寄せは以前より食べてもらえるようになり成果も感じられました。これからも工夫して取り組んで行きたいと思います。

(5) 安心・安全な食事、衛生面

- ・ 食中毒及び感染症予防のため、専門機関の各種検査を受け衛生管理に努めて来ました。今年度は、新型コロナウイルス感染症を防ぐため徹底した感染症対策が必要で、感染症予防研修を調理職員全員がリモート学び知識を深めました。また、食の安全を守るためにも一職員として自覚を持ち体調管理に努めてきました。
- ・ 東日本大震災から10年経過しても、大きな余震が発生するなど予断を許さない状況や、コロナ禍での生活も暫く続きそうことから、食料等の備蓄とマニュアルを再確認し、柔軟に対応できるようにして行きたいと思います。

(6) 次年度に取り組みたい事

- ・ 確認不足で配膳ミスもあったため、しっかりと確認しながら、業務の効率化、マニュアル化を図り余裕を持って作業できるようにして行きたいと思います。
- ・ コロナ禍により皆での会食会ができなく残念でした。次年度は、以前のように皆で集まり行事を楽しめるようになって欲しいと思います。
- ・ 個々に動くのではなく、いいたてホームと云う組織の一員であることを意識しながら共に行動して行きたいと思います。

4. 一年をふり返って

- ・ コロナ禍で大勢が参加する行事等が取り止めとなったり、色々な制約もありますが、やっぱり一番の楽しみは食事だと思います。食事で笑顔になれるよう職員が一丸となり取り組んで来ました。美味しかったとの言葉を頂けただけで、忙しさの中に遣り甲斐も実感しました。また、機器の新しい活用方法とマニュアル化を進めることで、調理の効率化と技術向上にも繋がり、一人ひとりに寄り添った食事を提供出来たと思います。
- ・ ご利用者の高齢化が進み、食べる事が難しくなるケースが増えましたが、どのようにしたら食べて頂けるのか、何なら食べて頂けるのかと悩みながらも、何とか食べて頂きたい一心で、多職種と連携しながら試行錯誤してきました。

全く食事が摂れず危ない状況だった方が、好きな物を一口食べる事をきっかけに、ちょっとずつですが食欲が戻られ、今では普通に食べられるまでに回復され、その姿を見た時に改めて食事の大切さを実感しました。食事後、「いやぁ〜うまがったな〜。どうもありがとう。」と言って下さいますが、自分たちの方こそ食べて頂いてありがとうございます。“食べる＝生きる事”を体現し学ばせて頂き尊敬の念で一杯になります。

これからも難しいケースが予想されますが、食べる事が生きる力の源になるため、要望に応えながら、より安全に美味しく摂れるよう、食卓に笑顔の花が咲くように取り組んで行きたいと思います。